

2015年2月12日 掲載 物流ニッポン

ワインローダーと提携

資本参加 東京・三多摩を委託

トナミなど特積3社

トナミ運輸（綿貫勝介社長、富山県高岡市）、第一貨物（武藤幸規社長、山形市）、久留米運送（二又茂明社長、福岡県久留米市）の中堅特積3社は6日、ワインローダー（高嶋民仁社長、東京都杉並区）と資本・業務提携した、と発表した。3社は東京・三多摩地区の配達業務をワインローダーに全面委託して一元化し、効率化を図っていく。（高木明）

安定成長へ相互支援

ワインローダーは資本金5千万円で、今回の買い取り分（出資額）は非公表だが、3社合計で約25%とみられる。3社は「物流事業の一層の発展と将来的に安定し

た成長の相互支援を図るとして、資本参加して結び付きを更に強めることにした」の不要品を回収してリユ

ス、リサイクルするサービスのほか、特積会社の配達業務を請け負っている。車両は2台トラックを中心に約140両を保有し、4事業所（東京都東村山市、昭島市など）を持つ。2014年3月期はエコ物流に注力し、売上高は14億6600万円と増収に転じた（東京商工リサーチ調べ）。

トナミなど3社は12年9月に東京―大阪の幹線輸送を担う共同出資会社ジャパソ・トランス・ライン（JTL、坂田昭雄社長、江東区）を設立し、業務の効率化に向けた取り組みをスタート。その後は東北―大阪―九州及び中京―関東の幹線輸送の一部共同化や、2社による長距離運行便の乗り継ぎ運行などを実施している。